

解説 14 現代日本の結婚・家族をめぐる

【課題のねらい】

- 1 身近なところから社会の問題について考えるための方法を学ぶこと。
- 2 思い込みによらず、データにもとづいてものごとを考える態度を身につけること。
- 3 個人的に思われることがらが、社会のあり方と深く結びついているということに気づくこと。

【解説】

2015 年に実施された「国勢調査」によると、生涯未婚者の割合は男性で 23.4%、女性で 14.1%といずれも過去最高の結果となりました。また、参考図書・資料にも示しておいた「第 15 回 出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」（国立社会保障・人口問題研究所 2017）によると、未婚女性のうちで、結婚せずに仕事をつづけていくような生き方を今後の人生の予定としている者の割合は 21.0%とこれもこれまでで一番高い値となりました。結婚経験を持たない中高年の増加と、結婚を人生設計に組み込まない若者の増加という二つの現象が同時に生じていることから、参考図書・資料にあげた文献（永田 2017）では、こうした現代社会のあり方を「生涯未婚時代」とよんでいます。

誰もが一定の年齢になると結婚し、子どもをもち、夫／父親は仕事に、妻／母親は家事や育児にという性別にもとづく役割の分業を組み込んだ家族（近代家族とよびます）を形成する人生が標準的なものとして浸透したのは、日本社会においては第二次世界大戦後の高度経済成長期の頃からのことです。しかし、現代社会においては、かつての社会が備えていた仕組みや条件の多くが失われつつあります。雇用の流動化や、働く女性の増加といったことを考えてみてもよいでしょう。労働やジェンダーのあり方が変化したこうした状況の中で、結果として人々の生き方が標準的なパターンに収まらず、結婚経験をもたない、またそれを人生設計に組み込まない人々が少しずつ増えてきました。現代社会は結婚や家族のもつ意味が問い直される時代であるともいえます。

課題を通して自分自身の将来についてもぜひ考えてみてください。そして自分が生きるこれからの社会がどのような社会であればよいか、考えてみてください。